

学年通信

全日制 五十一期担任団発行

みんなが書いた作文を通して、修学旅行を振り返りましょう。

◆一日目

私は修学旅行にずっと憧れていました。何故ならば中学時代にあったはずの修学旅行が新型コロナウイルス感染症拡大によりなくなってしまうたからです。高校の修学旅行が初めてにして最大のイベントとなり、興奮が冷めることなくずっと続いていました。二ヶ月前から友達と着ていく服などを話し合ったりして、毎日の学校生活が修学旅行のことでいっぱいでした。前日は早く寝たものの不安もあり、なかなか寝付くことができませんでした。そして待ち望んだ当日の朝は二時四十五分に目を覚まし、顔のむくみをとって髪型をセットして、準備万端で家を出ました。

一度も飛行機に乗ったことがなく、テレビ番組で見るとような墜落事故が起きたりしないかとても不安でした。しかしいざ乗ってみると離陸が待ち遠しくなり動き始めて離陸すると興奮しました。窓からの景色も想像より綺麗でした。

【平和公園・原爆資料館】

長崎は第二次世界大戦の時に原爆を受けて大きな被害を受けた地域です。そこで戦争の怖さを改めて感じました。聞いた話では、原爆が落ちた瞬間に物凄い爆音と光が押し寄せてきたそうです。地面は千度から四千度まで上がり、多くの物が灰になり多くの人が亡くなってしまいました。授業やテレビなどでも戦争を学ぶ機会が多くありますが、被害者の方から直接聞く話には特に迫力があり、とても恐ろしいと感じました。そして防空壕の跡地を見たときには、こんな洞穴のような物で身の安全を確保するのは無理だろうと思いました。平和を象徴する像はスケールが凄くて圧倒されました。戦争で苦しんだ人々の思いがたくさん込められているんだと思いました。

原爆資料館の展示物や講演の中での「爆発したときはまるで地球上に二つ目の太陽ができたように思えた。」という言葉が凄いなと思った。

実際に被曝された方のお話を聞いてみると、原爆投下時の状況がいかに恐ろしかったか、終戦後の生活がいかに過酷だったかがとてもよく分かりました。お話を聞いた後に長崎平和記念館の見学をしました。黒焦げになったお弁当箱や子供が着ていたポロポロの洋服を見て、とても心が痛みました。今の生活は当たり前だと思っていたけど、そう思わずに今の生活に感謝するべきなんだと思いました。

最も印象的だったのは、「喉が乾いてたまりませんでした。水には油のような物が一面に浮いていました。どうしても水が欲しくてどうとう油の浮いたまま飲みました。」という文が彫られた石のある噴水です。私達は戦争を経験していないけれど、その文を読み、まるで自分も経験したかのように苦しい気持ちになりました。

◆二日目

【ペーロン】優勝は五組

ペーロンでは海での船に乗るのは恐怖しかなかったですが、やってみると息を合わせるとスピードが上がるのがわかり、面白い体験をしたなと思いました。

ペーロンでは思っていたより漕ぐのが大変で、「一、二、三」とみんな息を合わせるのがとても難しかったです。一回目は全力でやって楽しかったのですが、二回連続で乗ったのですごく疲れてしまいました。

ペーロンは「団結力」という言葉をそのまま具現化したように感じた。

【長崎市内見学】

観光では三つのことをしました。一つ目は中華街で食べ歩きをしておいしい角煮まんを食べたこと。二つ目は一メートルのパフェを食べ切り、完食証明書に福生高校の名前を刻んだこと。三つ目はペンギン水族館へ行ってたくさんペンギンの鳴き声を初めてしっかり聞いたことです。

元々カステラに興味はあまりなく長崎に行っても他の物を食べようとしていました。でもグラバー園の近くのカステラがとても美味しくカステラが大好きになりました。

長崎の市内観光では中華街やペンギン水族館、めがね橋へ行きました。たくさん観光して長崎の人達はとても接しやすく、優しく良い人たちだと思いました。タクシーの運転手さんがめがね橋に連れて行ってくれた時、運賃を安くしてくれて本当に優しい人だと思いました。

お昼ご飯を食べる場所が見つからず、近くのガストに行きました。店員さんが少しなまっけていて新鮮でした。その後はめがね橋や長崎新地中華街に行ったりなど、たくさん観光しました。

長崎ちゃんぽんを食べに行ったお店の方がすごく親切で、長崎の提灯のお祭りを教えてくださいました。

◆三日目

【コース別体験学習】

*軍艦島コース(雨天により内容を変更)

天候の影響で上陸はできませんでしたが、海や建物から歴史を感じました。

船から見える景色はとても美しかったです。

*九十九島コース(雨天により内容を変更)

九十九島のコースでは雨が降りヨットができなくなり、真珠の玉取り体験をしてキーホルダーとして持ち帰りました。残りの時間は水族館でかわいい魚やイルカショーを見て癒されました。

*イルカコース

野性のイルカを船の上から見ました。距離が近くてビックリしました。初めて見る野生のイルカは可愛かったです。

*カステラコース

料理はあまりしないので苦労すると思っていました。しかし材料を入れてかき混ぜ、型に流し込むだけの簡単な作業でした。家で食べると美味しくできていました。

あんまり楽しそうではないと思っていたが、やってみると簡単だったし、すごく楽しかったです。

【ハウステンボス】

ハウステンボスでは雨の中、風も強く中々大変だったが、夜のイベントではオーロラを思わせるような風景と水の演出が良かった。そして、イルミネーションは息を呑むほど綺麗だった。

ハウステンボスでは適当に「ガラスの博物館」に行くことにした。中は人がいなく落ち着いた雰囲気なんだか家のような気分になった。階段を上がり三階に行くときまるで教会のような場所に着いた。そこで見たルネ・ラリックの「セイレン」というガラス皿が今でも忘れられませんが。今まで芸術に興味はあまりなかったが、このガラス皿は一目見たとき見た時すごく美しいと感じた。水色に青の支えがあるその皿はライトアップされていてまるで海のようなだった。この皿を一生忘れることはないだろう。本当に修学旅行に行って良かった。

◆四日目

【太宰府天満宮】

太宰府天満宮に行き、そこで食べた梅ヶ枝餅はおいしく印象に残りました。

おみくじを引き結果は小吉でしたが、努力して運勢を上げていこうと思いました。また太宰府天満宮付近にはたくさんのお店の名物やお店が並んでいて、その中のお店で食べた抹茶のアイスクリームは一生忘れられない味になりました

【福岡空港内見学】

ラーメンをたくさん食べることができて満足だった。

豚骨ラーメンを食べました。本場の味はとても良くまた食べたくなりました。

四日目はとても疲れていて、お金を払ったのに商品ももらわずに行ってしまうということを一、二回もしてしまいました。

◆宿泊ホテルで

一日目と二日目のホテルでは食事の時間がとても楽しかったです。女子は別部屋が用意されていて、みんなの声がよく聞こえてたくさん話しながら食べたり、「いただきます。」を大きな声でみんなが言ったり。先生達からご飯をもらったり、たくさん笑うことができました。

一番思い出に残っているのは、夜に私の部屋で話し合いです。理由は、スマホを使わずに時間を忘れるくらい夢中になったからです。今の時代はスマホを常に使う時代です。それなのに誰もスマホに触れずに楽しく話せたのが久々だったから思い出に残っています。

◆修学旅行を終えて

修学旅行の最後の日感じたのは「安心」です。私はその日の夜にいつも一緒の友達と会い安心し、家族と会い安心し、家に帰って安心するという安心の連続でした。自分の心が安まる所があるのはとてもいいことだなと思いました。

この四日間を通して普段体験することのないことをたくさん体験できて良かったです。

お土産をたくさん買って、近所の人にあげたりおばあちゃんにもあげて、とても喜んでいたので良かったです。

いつもの友達と遊びに行ったただけなのだが、文字に書いてみると「修学旅行」という心踊るイベントでした。

この四日間で痛感したのは友達という存在のありがたさだった。まわりに恵まれるということがどれだけ良いことか痛感した四日間だった。

マイナスなことが多少あったとしても楽しく友人といれば良いことの方が多いのかなと思いました。中学の修学旅行に行けていない人が多いと思いますが、今回の修学旅行が良かったです。

とてもワクワクして何か珍しいことや面白いことがあれば、すぐに片手にスマホを用意して写真を撮っていました。

初めての飛行機、初めての長崎。すべてのことが初めてでした。市内巡りではたくさんの方々の長崎民の方達と触れ合うことができて幸せでした。たくさんの方々の長崎弁を教えるもらったり、長崎のノリに乗れていることが不思議でした。中学生の時はコロナで修学旅行に行けなかったので、本当に行けて良かったなとすごく思いました。最高の四日間を過ごすことができました。大好きな友達とたくさん思い出を作ることができて、嬉しかったです。

最終日に感じ、思ったことはただ一つ「感謝」です。この修学旅行を計画してくれた人、安全に送り届けてくれた人、ホテルの方やバスガイドさんたち、もちろん家族も含めてこの全てに関わってくれた人に感謝の気持ちでいっぱいでした。本当にありがとうございました。

作文を読んで、みんなが修学旅行を満喫していたことが分かりました。

修学旅行に行けて、本当によかったね！